

サッカー

(沖縄県南城市陸上競技場ほか)

【男子1回戦】

徳島市立 0-0-0 佐賀北
徳島 0-0-0 佐賀
PK戦 3-3

徳島市立1回戦突破 男子



男子1回戦・佐賀北対徳島市立 PK戦で勝利を決め喜ぶ徳島市立の選手たち＝沖縄県南城市陸上競技場

守備陣粘りPK戦制す

徳島市立男子は、70分間を戦い終え、0-0のままPK戦に突入した。4人目が蹴り終えて徳島市立が1本リード。「入れればうちが勝つ。(1本目を止めたGK)米田のためにも絶対を決める」。5人目のキッカー阿部主将が渾身(こんしん)の一撃をゴール左隅に突き刺すと仲間が駆け寄り歓喜の輪ができた。思っようなゲーム運びができないまま時間が過ぎた。守りを固める相手を崩せず、セットプレーから好機をつくるスタイルが封じられた。シユートはわずか4本。阿部主将は「ボールを持つ時間は多かったが、サイド攻撃につなげられなかった」と反省点を挙げる。

一方、点が入らない時に気持ちが悪くなって、失点につながる悪い癖は出なかった。米田が「残り時間のことば考えず、とにかく集中して守った」と振り返るように、守備陣の踏ん張りで無失点に抑え、PK戦に仕上げた。

4年ぶりのインターハイ勝利にチームの士気は上がる。「守って勝ち切れたことは大きい。次も耐えてワンチャンスをもたにする」と阿部主将。2007年の徳島商以来となる県勢の「夏2勝」へ意気込んだ。